

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	九州大学 (福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学) 計10大学
事業名 (全角20字以内)	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

1. 九州全体の医療系大学においてこれまでがん医療全般の専門家養成が図られ、これらの人材ががんの臨床や研究の現場で活躍しつつある。一方で、小児がん及び希少がんは臨床経験を積む機会が乏しいため、九州においてはその診断・治療を高度に実施できる専門医療人材は圧倒的に不足している。

2. 小児、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代、そして高齢者など、ライフステージに応じたきめ細やかながん診療を行うには、それぞれの世代に対して異なる職種のチームによる医療が必要である。これらのニーズに対応できる人材は不足しており、その養成が課題となっている。**特に九州は全国における離島・僻地の49%を有しており**、高齢化する離島・僻地住民へのがん対策が必要とされている。

3. ゲノム医療に関する研究成果が国内外で蓄積し、その実用化が加速している。しかしゲノム医療を適切に臨床応用できる人材、さらには自ら研究開発に貢献できる人材の養成は、九州のみならず我が国において喫緊の課題である。

〈事業の概要〉(400字以内厳守)

本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

②大学・学部等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

本プランに参加する10大学が掲げる共通の教育理念として、「最高水準の研究を推進しその先端知識を地域社会、国際社会に還元できる人材の育成」が挙げられる。様々な背景を持つ全ての国民が、がんという疾病を克服して健康な暮らしを享受できる社会の実現を目指す本プランの目的は、大学・学部の使命に合致するものである。

③新規性・独創性

多様な新ニーズに対応するがん専門医療人養成のため、本プラン参加大学内に新たに小児がん治療の専門医を育成する**小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース**、がんゲノム情報に基づいた適切ながん医療を推進できる人材を育成する**ゲノム基盤臨床腫瘍学コース**などを設置する。また希少がんの症例数を確保し包括的な教育を行うため既存の教育コースを発展的に改変し、**希少がん・放射線治療学コース**などを設置する。さらに国内では希少ながら九州での発生の多いカポシ肉腫や成人T細胞白血病を重点的に教育するコースも設置する。これらはいずれも各大学病院内の小児医療、希少がん、ゲノム医療の関連部門及び院内がんセンターボードなどの組織と強力で連携して実地教育を実施する。またこれらの分野を幅広い職種が習熟できるよう多数のインテンシブコースを設定した。新たなコースの設置に加え「ゲノム医療講習会」「小児緩和ケア講習会」等、**新ニーズに関する知識の普及を目的とした各種研修モデルの策定**も積極的に実施する。また、従来の外部評価に加え、拠点間の枠組みを超えて事業を同じ目線で相互評価する「**拠点間リトリート**」を新規に実施する。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

がん患者の身体、精神、社会的側面に配慮したきめ細やかな専門的医療を提供できる人材を養成するためには、様々な背景を有する患者及びその家族を包括的にケアできる**チーム医療の充実**が必須である。本プランでは様々なライフステージに合った、また発症頻度の高いがんから希少がんまでを対象としたあらゆる種類のがん治療を適切に推進するため、複数の職種を対象とした教育を実施する。更にこれらの教育の成果は、社会に対する情報発信として、ホームページ・SNSや市民公開講座を通じて広く還元する。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

本プランに参加する各大学や医師会等がこれまでに実施してきたキャリア教育・キャリア形成支援並びに男女共同参画の取組を収集し、**がん専門医療人養成にとって有益となるキャリアパスのモデルケース等を積極的にコース履修生等へ講演会等の形で還元**する。また補助期間内に本プランの**コース履修生の教育・研究の成果を本プラン内外に広く公開する場を設ける**等により、本プランで養成するがん専門医療人がコース修了後スムーズにキャリアアップを実現できるよう社会に要請、情報発信していく。

⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：各コースは平成29年10月もしくは翌30年4月に開講予定。
- ・教育プログラム・コースの実施数：全34コース（うちインテンシブ10コース）。
- ・教育プログラム・コースの履修者数：721人（予定）。コース別の内訳は様式2を参照。
- ・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数：
[平成29年度]シンポジウム1回50人、セミナー22回960人、市民公開講座1回100人、10大学
[平成30年度]シンポジウム1回50人、セミナー28回1,190人、市民公開講座1回100人、10大学
[平成31年度]シンポジウム3回120人、セミナー21回1,000人、市民公開講座1回100人、10大学
[平成32年度]シンポジウム1回50人、セミナー22回1,010人、市民公開講座1回100人、10大学
[平成33年度]シンポジウム2回70人、セミナー21回1,000人、市民公開講座1回100人、10大学
- ・海外機関との連携：補助期間を通じ、毎年1回以上、海外機関との交流事業（学生・教員の派遣/受入）を継続的に実施する。また、事業成果はホームページやSNS等を通じ、本プラン外にも広く分かりやすい形で情報発信・普及する。
- ・拠点間リトリート：2回（H30年以降 名古屋大学グループ、東北大学グループと計画）

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

本プラン参加大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院長がこれを統括する。また各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学に幹事コーディネーター教員（九州連携臨床腫瘍学講座教授）がこれを統括する。各大学コーディネーター教員等により「事業運営推進協議会」（仮称）を組織し事業運営の意思統一、円滑な運営を実現させる。加えて九州大学内に本プラン事務局を設置し、各大学が実施する事業の集約・情報発信、eラーニング教育支援、コース実績等収集を一元管理することで、効率的かつ効果的な実務運営を行う。

②事業の評価体制

九州大学大学院医学研究院長が議長となり、各大学コーディネーター教員や連携医療機関代表者等を招集し、「事業運営推進協議会」（仮称）を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催する。本協議会で事業計画の策定、進捗状況の共有、内部評価を行う。併せて外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置し、補助期間を通じて継続的な第三者評価を実施することで客観的評価を踏まえた事業改善が可能となり、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築する。また、学外有識者による外部評価を年1回、異なる拠点の事業当事者が同じ目線で相互評価を行う「拠点間リトリート」を隔年1回行う（名古屋大学、東北大学グループと計画）。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

本プラン参加は10大学と広範にわたるため、TVカンファレンスや合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有すると共に、九州・長崎・鹿児島大学が中心となるエリアごとに事業の集約を行うことで連携を現実的なものとする。また本プラン参加大学の多くは自大学に「がん診療連携拠点病院」を有しており、地域がん診療の連携協力体制構築をスムーズに進めることが可能である。加えて九州大学病院は九州内唯一の「小児がん拠点病院」であることから、すでに新ニーズへ対応する人材育成に向けた取組の策定・実施において本プランと連携体制を構築する環境が整っている。さらに民間企業が実施する様々ながん医療に関わる講習会を活用し、履修生の知識、技術の向上に役立てる。また、拠点間リトリートを名古屋大学、東北大学グループと実施する。

（2）取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

補助期間終了後は自大学において予算を確保し本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」（仮称）において、事業継続のための具体的な検討を行う。

②事業成果の普及に関する計画

本プランコース履修生の修了後所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。また本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座などで事業成果を広く共有し社会に発信する。

3. 年度別の計画

（1）年度別の計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 10月 新しい教育コースを開始。本プラン事務局、公式ホームページを開設・公開 ② 10月 「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③ 10月～2月 連携大学間のテレビ会議システムによる「ゲノム医療講習会」（12月）、及び各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施 ④ 1月 連携大学共同による研修会を実施 ⑤ 2月 国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議 ⑥ 2月 連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施
------	--

30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 新しい教育コースを開始。 ② 4月～3月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施 ③ 6月 海外医療機関との訪問研修実施 ④ 6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ⑤ 7月 他拠点とのリトリート実施 ⑥ 10月 事業の成果普及のための市民公開講座を開催 ⑦ 1月 男女共同参画に係る講演会を開催
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月～3月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施 ② 6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③ 8月 履修生のキャリア形成支援を目的とした「先輩医療人による講演会」開催 ④ 11月 事業の進捗状況評価のため「中間外部評価シンポジウム」を開催
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月～3月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施 ② 6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③ 7月 他拠点とのリトリート実施 ④ 9月 履修生による「教育研究成果発表会」開催による本プランの効果の発信
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月～3月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施 ② 6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③ 11月 事業の最終評価のため「最終外部評価シンポジウム」を開催 ④ 2月 本プランの実績・成果を報告書配布等を通じて広く社会へ公開・還元。
34年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 新しい教育コースの講義、実習を継続して実施 ② 11月 修了生等による「成果発表会」開催による本プランの成果の発信 ③ 11月 「事業運営推進協議会」（仮称）を開催し事業の継続について評価 ④ 1月 連携大学間のテレビ会議システムによるがん医療に関する講演会を実施

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院医学系学府医学専攻						
教育プログラム・コース名	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース						
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がんゲノム研究成果を理解した上で、これを基盤とした高度ながん医療の実施と研究開発を、多職種との協働で適切に推進できる医師、研究者および指導者を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目29単位、選択科目13単位以上、合計42単位以上の習得および臨床研究の経験						
履修科目等	<必修科目> 臨床研究専門教育科目（2単位）、実習科目 臨床腫瘍学実習（12単位）、専攻コア統合科目 がん専門医師養成コース入門（4単位）、博士論文演習科目（6単位）など計29単位 <選択科目> がん専門医師養成教育科目（がんの基礎的性質とゲノム研究、がん治療の基本原則、ゲノムを基盤とした各種がんの診断・治療、緩和ケアと多職種連携演習、など）5単位以上、専攻コア選択科目8単位以上						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム基礎研究者と密接に連携し、最新の知見を実臨床へ応用できる講義、演習を行う。アジアを中心とした海外の研究機関、医療機関との交流の機会を通じて、国際医療協力の視点を持ったがん医療専門家を養成する。大学病院や地域医療機関との多職種連携演習を通じて、包括的がん医療が推進できる人材を育成する。						
指導体制	講義、演習、実習、研究は本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学病院、地域のがん診療連携拠点病院、地域の基幹病院において、がんゲノム医療を実践するがん専門医師として活躍できる。また大学などの機関で、研究者、教育指導者として貢献できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	7	7	7	7	28
							0
							0
							0
	計	0	7	7	7	7	28

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院医学系学府医学専攻						
教育プログラム・コース名	希少がん・放射線治療学コース						
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん専門医としての基本的な素養だけでなく、希少がんについての知識や経験をも兼ね備え、ライフステージに応じたがん治療を推進でき、かつ独創的な研究活動を行える放射線治療医師の養成。						
修了要件・履修方法	必須科目29単位，選択科目12単位以上，計41単位以上の修得及び臨床研究の経験。						
履修科目等	<必修科目> 臨床研究専門教育科目（2単位），実習科目 臨床腫瘍学実習（12単位），専攻コア統合科目 がん専門医師養成教育科目（4単位），博士論文演習科目（6単位）など計29単位 <選択科目> がん専門医師養成教育科目（高精度放射線治療・重粒子線治療実習，希少がん治療実習，ライフステージに応じたがん治療実習，多職種連携がん診療セミナー，多職種連携緩和ケアセミナーなど）4単位以上，専攻コア選択科目8単位以上						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	放射線治療を通じて、各科にわたる希少がんに関する包括的な知識を学び、各種治療について実践的に学習する。AYA世代から高齢者にわたるライフステージに応じたがん治療について学習し、放射線治療を实践する。また、先端放射線治療の分野においても研究を行い、国際学会等を通じて社会に発信していく。						
指導体制	講義、演習、実習、研究は本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	単に放射線治療専門医の資格を取得するだけではなく、大学病院やがんセンターなどのがん拠点病院において、希少がんに対する治療、ライフステージに応じたがん治療を推進し、更に研究者・教育指導者としても活躍できる専門医の養成が可能。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院医学系学府医学専攻						
教育プログラム・コース名	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース						
対象者	医学系学府医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	小児がんやAYA世代のがん、希少がんに対して、集学的治療を中心となって実施し、新たな診断・治療法の開発を推進できる医師、研究者、指導者を養成する。また多職種と連携して、患者や家族の包括的な相談支援体制を構築できる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目27単位、選択科目15単位以上、合計42単位以上の習得						
履修科目等	<必修科目> 実習科目 臨床腫瘍学実習（12単位）、専攻コア統合科目 がん専門医師養成コース入門（4単位）、博士論文演習科目（6単位）など計27単位 <選択科目> 臨床研究専門教育科目（4単位以上）、がん専門医師養成教育科目（がん治療の基本原則、小児がん・AYA世代のがん・希少がんの包括的治療、緩和ケアと多職種連携演習、など）3単位以上、専攻コア選択科目8単位以上						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	九州・沖縄の小児がん医療拠点としての大学病院と密接に連携し、豊富な症例を対象とした臨床実習と講義を通じて高度な診断、治療を行うがん医療専門家を養成する。						
指導体制	講義、演習、実習、研究は本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学病院、地域のがん診療連携拠点病院、地域の基幹病院において、小児がん、AYA世代のがん、希少がんに対して高度の医療を実践するがん専門医師として活躍できる。また大学などの機関で、研究者、教育指導者として貢献できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野
教育プログラム・コース名	先端医用量子線技術科学コース
対象者	医学研究院保健学部門医用量子線科学分野修士課程
修業年限（期間）	2年（社会人で3年コースを選択したら、3年）
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人（例：診療放射線技師、医学物理士）を養成する。 ・臨床ビッグデータ（ゲノム情報などを含む）を適切に管理、解析でき、ゲノム医療にも対応できる医療データサイエンティストとしての役割を果たす人材を目指す。 ・医学物理の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・医学系学府保健学専攻修士課程の修了要件を満たし、修士論文の最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 基礎電磁波論（2単位）、医用線量計測学（1単位）、保健医療とIT（1単位）、保健学研究論（2単位）、医用量子線科学特別研究（10単位）</p> <p><選択科目> 基礎量子力学（2単位）、医学物理情報理論（2単位）他</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床ビッグデータ（ゲノム情報を含む）を適切に管理、解析でき、新たな知見を発見できる医療データサイエンスに関する内容を教育する。 ・臨床の現場で必要とされるニーズ（小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象としたがん治療）と基礎理工学を繋ぐ先端医用量子線技術科学を教育し、関連する研究を指導する。 ・アジアだけでなく世界を視野に入れ留学生を受け入れ、留学生の出身大学との国際共同研究を推進する教育研究プログラムを開発し、国際的な先端医用量子線技術科学を教育する。
指導体制	各指導教員の下適切な指導を受け、修士論文の研究を推進する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で働く医学物理士かつ医療データサイエンティスト（ゲノム情報を含む）として、画像診断、核医学、放射線治療において高度な理工学的知識を有し指導的立場で臨床業務に従事する。 ・大学等の研究者として、医学物理における多様な知識創造活動を行い、先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与する。 ・企業等の技術者として、画像診断、核医学、放射線治療に関する医学物理領域において国際競争力のある最先端・次世代の医療機器を開発する。 ・アジアを中心とする海外で活躍する医学物理士及び医学物理研究者として、母国及び他国で臨床現場、大学、企業等で医学物理業務を行う。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生		8	8	8	8	32
							0
							0
							0
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院医学系学府保健学専攻						
教育プログラム・コース名	がん専門細胞検査士コース修士課程						
対象者	保健学専攻検査技術科学分野（病理細胞学研究コース）						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの取り組みである稀少がん及び小児がんの的確なる細胞診断能力を身につける。 ・臨床現場の病理学分野において、細胞検査士としての的確な細胞診断業務を行えること。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・修士課程終了のために、本過程に2年間以上在学して20単位を終了し、日本臨床細胞学会の認定試験である細胞検査士の資格取得を目指す。 						
履修科目等	<p><必修科目> 保健学研究論：2単位、国際社会とチーム医療：2単位、保健・医療とIT：1単位等、病態情報形態学演習（2単位）、検査技術科学特別研究（病理細胞学）（10単位）</p> <p><選択科目> 医療と生命倫理（2単位）、がん医療支援論（2単位）、病態情報機能学（2単位）、生体情報解析検査学（2単位）ほか</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・付属病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修を行い臨床現場において、本プログラムにおける稀少がん及び小児がんの形態学的検査である病理細胞診断が行えるような能力を身につける。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・修士課程の講義・演習・検査科学特別研究とともに、付属病院での病理細胞学的検査の臨床研修を行う。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床細胞学会の認定資格である細胞検査士の取得を目指し、資格取得後は地域中核病院の病院病理部等で業務にあたる。 						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	臨床検査技師	2	2	2	2	2	10
							0
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程						
教育プログラム・コース名	がん研究薬剤師コース博士課程						
対象者	薬学府臨床薬学専攻博士課程 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。						
修了要件・履修方法	「先端医療薬学研究実験（がん研究）」の必修科目32単位，「先端医療薬学研究演習」，「臨床研究演習」，「臨床試験演習」，「腫瘍関連講義」，「腫瘍関連研究・実習」及び「創薬・臨床コラボ実習」の選択科目から8単位以上，計40単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。						
履修科目等	<必修科目> 先端医療薬学研究実験（がんおよび痛みなど緩和医療に関する研究）（32単位） <選択科目> 先端医療薬学研究演習Ⅰ～Ⅲ（各4単位），腫瘍治療学Ⅰ～Ⅱ（各2単位），腫瘍治療学実習（4単位），創薬・臨床コラボ実習（4単位），臨床研究演習（2単位），臨床試験演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	平成24年度設置の薬学府臨床薬学専攻博士課程（4年間）においてがんの基礎・臨床に関する研究，講義，演習及び実習を行う。						
指導体制	講義は、多職種との協働でチーム医療を醸成する。研究は、部局内の複数指導教員体制により実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献できる。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	2	2	2	2	2	10
							0
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福岡大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース						
対象者	先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	小児期、思春期・若年成人期、老年期など様々な世代のがん患者に対して、それぞれの世代に発症する腫瘍の細胞生物学的特徴を把握して治療計画を立てることができ、かつそれぞれの世代の患者が抱える身体的、精神的、社会的な問題点を理解した上で患者の支援ができる医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	教育課程共通科目8単位以上、教育課程別専攻科目22単位以上、合計30単位以上を履修し合格しなければならない。学位論文作成。						
履修科目等	<必修科目> 講義シリーズⅠ（4単位） 講義シリーズⅡ（4単位） 腫瘍生物学、腫瘍治療学、腫瘍診断学(各4単位) <選択必修科目> 臨床腫瘍学講義、臨床腫瘍学演習、臨床腫瘍学特別演習、臨床腫瘍学実習等						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国e-learningクラウドシステムを利用して大学病院以外で働いている医師が社会人大学院生として入学できる。 テレビ会議システムを使って大学病院外で講義やセミナーを受講できる。						
指導体制	教育課程の講義、演習を受け、研究者としての素養を積む。 各専攻科の教員を中心とする指導体制の下で研究を推進する。 2年次の終わりには研究計画・研究成果の一部を発表し、教員や院生と議論することで研究の質の向上と遅滞ない研究の遂行を促す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域のがん診療病院で、診療チームのリーダーとしてがん患者の治療や支援に携わる。 在宅診療医もしくはかかりつけ医として、がん診療病院の医療者と連携してがん患者の闘病生活を支援する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福岡大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブ）						
対象者	がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師、理学療法士、大学院生など						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がんの組織型、分子生物学的特徴、病期など腫瘍の特徴と、全身状態、臓器機能、精神状態、社会的背景など患者の特徴を理解でき、がん薬物療法や外科手術、放射線治療の特徴・適用と有害事象・禁忌を知った上で、がん患者に対するチーム医療を計画・遂行できる医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	月1回（年12回）開催するがんセミナーを8回以上受講する。（初年度は後期からのため、回数は半分）						
履修科目等	がんセミナー（12回/年） 腫瘍生物学、がん臨床一般						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。 テレビ会議システムを使って大学病院外で講義やセミナーを受講できる。						
指導体制	がん診療の専門資格をもつ医師、看護師、薬剤師が中心となって教育内容を検討し、指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん診療チームの一員として、治療計画の立案、患者への説明、安全かつ有効な治療の実践、患者の身体機能や栄養の維持に従事する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	5	5	5	5	25
	看護師	20	20	20	20	20	100
	薬剤師	10	10	10	10	10	50
	その他	5	5	5	5	5	25
	計	40	40	40	40	40	200

教育プログラム・コースの概要

大学名等	久留米大学大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻
教育プログラム・コース名	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」
対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん、特に希少癌の治療は疾患について解明されていない部分が多いだけに本人、家族は大きな不安を抱いていると思われることから、より高度なコミュニケーション能力やカウンセリングのテクニックを有する人材を養成する。
修了要件・履修方法	修了の要件は、個別最適医療系先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニットでの単位を31単位以上取得し、かつ、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。評価は収集した情報を履修する院生に提示し、ディスカッションの中から課題を見つけそれに対する解決法が述べてあるかで行う。
履修科目等	共通科目：ゲノムドラフトの解明（1単位） 遺伝子多型（SNPs）他18科目から選択（6単位以上） 専攻科目およびコース科目より20単位 論文実習より5単位 合計31単位以上
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	情報の収集とディベート、問題解決能力を身につける。
指導体制	基礎・臨床の各講座から専門的知識を持った講師以上の教員が指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	実地診療において実践する。さらにカウンセリングの向上とコメディカルの教育を実践し社会に貢献する。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻
教育プログラム・コース名	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成
対象者	看護師
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	幅広い視野から、困難で複雑な健康問題を抱えた患者・家族の療養生活を捉えることができ、豊かな知識と高度な看護実践能力を持つ高度実践看護師。地域・施設を越えて、がん患者と家族を中心とした地域システムの中で多職種との調整力を持ち、ベストプラクティスを導き出せる力を持った看護師。
修了要件・履修方法	必修科目38単位以上を取得し、最終専攻に合格すること。大学院終了後は日本看護協会の高度実践看護師認定試験に合格することを目標とする。
履修科目等	<p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目A+B合計14単位 A:看護倫理、看護研究方法、看護政策論、看護理論、コンサルテーション論、B:臨床薬理学概論、フィジカルアセスメント、病態生理学、専攻分野共通科目6単位:がん診断治療学、がん看護特論、がん看護援助論、専攻分野専門科目8単位:がん薬物療法看護特論Ⅰ、Ⅱ、がん緩和ケア特論、がん緩和ケア地域連携援助論(すべて2単位)、実習10単位:がん看護学実習Ⅰ～Ⅴの計38単位以上 ・e-learningによる履修
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	高齢がん患者やがんで在宅療養する患者が多い現状で、本地域は、地域緩和ケア施設や携わる医療従事者が多いという特徴がある。本大学は、いち早く在宅看護学実習を取り入れて、地域における多職種連携の実践をしている。そのような中で在宅ケアに社会が求めるニーズは、在宅療養を推進する地域コーディネイト力や他職種間の役割を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材の育成であることが課題として実感できた。そこで本コースは、日本看護協会が認定する高度実践看護師養成のための科目に加えて、総合大学という強みを生かし教育学のスペシャリストとコラボレーションし、小集団学習、リーダーシップ論の講義・演習を行ない、がん緩和ケア地域連携力の向上をねらうプログラムとする。また、地域における多職種連携を推進する実践では、本コースの在宅看護学実習における困難な事例でも、IPW（インタープロフェッショナル教育ワーク）を用いた事例検討により、組織的な問題解決能力を修得することができ、地域が求めるコーディネイト力が発揮できる人材を育成できる教育プログラムとなる。
指導体制	久留米大学大学院医学研究科 教授 原 頼子、教育学のスペシャリスト2名、医学部看護学科専任教員6名、兼任講師（がん看護専門看護師）3名

教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	第1期がんプロから、コース履修者と修了生により構成される久留米ネットワークを形成し、キャリアディベロップメントを行い、個々のキャリアプランを支援している実績がある。継続教育では資格審査受験への支援、資格取得後では、組織の中で感じている専門職者としてのジレンマに関する相談や、組織構築上の問題に対しスーパーバイズを行っている。さらに、がんプロ共催による久留米ネットワークセミナーを毎年開催し、高度実践看護師コース修了生のフォローアップのみならず、インテンシブコース履修生への質の高いがん看護実践力の向上が図れる。すでに修了生の中からロールモデルとなる人材が育っている。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻
教育プログラム・コース名	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」(インテンシブ)
対象者	地域医療に携わる医療従事者
修業年限(期間)	2年
養成すべき人材像	施設や地域を越えた在宅療養の推進にむけて、がん患者と家族を中心とした地域システムの中で多職種との調整力を持ち、ベストプラクティスを導き出せる力を持った医療従事者。
修了要件・履修方法	本教育プログラム(インテンシブコース)で定める科目について、選択した科目を履修し、所定の単位を修得したら、単位を認定する。
履修科目等	専攻分野共通科目:がん診断治療学(2単位)、がん看護特論(2単位)、がん看護援助論(2単位)、専攻分野専門科目:がん緩和ケア特論、がん緩和ケア地域連携援助論(2単位)から選択する e-learningによる履修
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	高齢がん患者やがんで在宅療養する患者が多い現状で、本地域は、地域緩和ケア施設や携わる多職種の医療従事者が多いという特徴がある。そこで、連携を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材の育成が望まれる。本コースでは、がんに必要なとされる知識や援助を修得出来る科目に加えて、総合大学という強みを生かし教育学のスペシャリストとコラボレーションし、小集団学習、リーダーシップ論の講義・演習を取り入れ、がん緩和ケア地域連携における教育実践力の向上について探求するがん緩和ケア地域連携援助論を取り入れた。大学院での履修によりスキルアップした人材を地域へ還元することができ、がん看護の質を保証できる。
指導体制	久留米大学大学院医学研究科 教授 原 頼子、教育学のスペシャリスト2名、医学部看護学科専任教員6名、兼任講師(がん看護専門看護師)3名
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	インテンシブコース修了生は、地域におけるがん緩和ケア連携教育の企画・運営を担うことになるが、久留米ネットワーク(教育課程履修生・修了者で構成される)に所属するがん看護専門看護師が活動を支援することにより、質の高い連携教育力が提供できる。また、毎年開催されるがんプロ共催による久留米ネットワークセミナーに参加することにより、フォローアップが受けられ、九州内の緩和ケア従事者との連携の輪が広がる。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療に携わる医療従事者		2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	統合的地域がん治療専門医育成コース						
対象者	医学系研究科博士課程医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目28単位を含む規程の科目を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 臨床医学研究法講義(2単位)、臨床医学研究実習(12単位)、生命科学・医療倫理講義(2単位)、疫学・調査実験法(2単位)、基礎腫瘍学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、腫瘍薬物療法実習(6単位)</p> <p><選択科目> がんゲノム医療実習、小児・希少がん医療講義、ライフステージに応じた医療、放射線治療実習、緩和ケア実習、腫瘍薬学実習、がんリハビリテーション実習(各3単位)から計6単位を履修。e-ラーニングにより対応する科目を視聴した場合、1コマあたり3単位を修得することもできる。</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	小児がん・希少がん治療、あるいは青年期から高齢者までライフステージに応じた治療戦略を、施設、職種横断的に取り組むべく、地域ネットワークを構築する人材を育て、地域がん診療レベルの向上を得る。eラーニング・クラウドの活用、専門医による直接指導をおこなう。						
指導体制	がん薬物療法専門医、放射線治療医、緩和ケア医、がんリハビリテーション医、小児血液腫瘍医。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	佐賀県下において、佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワークにおいて専門的知識を生かし、佐賀のがん医療推進において中心的役割を果たす。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	2	2	2	2	2	10
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	佐賀大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	統合的地域がん医療人育成コース						
対象者	医学系研究科修士課程医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目30単位を含む規程の科目を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 人体構造機能学概論講義(2単位)、病因病態学概論講義(2単位)、社会・予防医学概論講義(2単位)、生命科学倫理概論講義(1単位)、臨床腫瘍学概論講義(2単位)、がん地域医療研究法演習(2単位)、がん地域医療研究実習(8単位)、研究科間共通科目(2単位)、専門選択科目Ⅰから医療統計学特論講義(1単位)及び臨床腫瘍学講義(1単位)を含め3単位以上、臨床腫瘍治療実習(6単位)</p> <p><選択科目> がんゲノム医療実習、小児・希少がん医療講義、ライフステージに応じた医療(各3単位)のいずれかを履修。eラーニングにより対応する科目を視聴した場合、1コマあたり3単位を修得することもできる。</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	小児がん・希少がん治療、あるいは青年期から高齢者までライフステージに応じた治療戦略を、施設、職種横断的に取り組むべく、地域ネットワークを構築する人材を育て、地域がん診療レベルの向上を得る。eラーニング・クラウドの活用、専門医による直接指導をおこなう。						
指導体制	がん薬物療法専門医、放射線治療医、緩和ケア医、がんリハビリテーション医、小児血液腫瘍医。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	佐賀県下において、佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワークにおいて専門的知識を生かし、佐賀のがん医療推進において中心的役割を果たす。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
							0
							0
	計	1	1	1	1	1	5

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻（博士課程）						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療人材養成コース						
対象者	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻）大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム情報を解析し，その結果を利用して患者のオーダーメイド治療を行えるがん専門医療人 ・乳がんを初めとした遺伝性疾患のカウンセリングを行えるがん専門医療人 						
修了要件・履修方法	本教育プログラム・コースで定める科目について，必修科目8単位，選択科目24単位以上，計32単位以上を履修する。						
履修科目等	<p><必修科目> 集学的がん治療学特論（3単位），集学的がん治療学実習（2単位），ゲノム科学（1単位），腫瘍学特論（基礎編）（1単位），研究支援科目（8単位），論文研究（8単位）等</p> <p><選択科目> 研究支援科目（6単位以上）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん診療における標準的な治療法に加えて，基礎系の教室の協力を得て基礎腫瘍学，ゲノム医療を学ぶことにより，ゲノム情報を解析しその結果を患者に還元できる臨床腫瘍医を育成する。また，学内の革新的ながん治療・予防研究ユニットで整備が進む「研究用geneticラボ」及び立ち上げが計画されている「ゲノム医療人材育成センター」と共同で，大学院生の教育を行う。						
指導体制	大学院医歯薬学総合研究科の教員，研究員 大学病院のがん専門薬剤師，がん看護専門看護師						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	現在，学内で整備を進めているNGSなどを用いた「研究用geneticラボ」の運用において中心的役割を担う。また，免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬の適正使用の指導的役割を果たす。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	歯科医師	0	1	0	1	0	2
	薬剤師	0	1	0	1	0	2
							0
	計	0	4	2	4	2	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻（博士課程）						
教育プログラム・コース名	包括的がん専門医療人養成コース						
対象者	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（医療科学専攻，新興感染症病態制御学系専攻，放射線医療科学専攻）大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代・壮年・高齢者といったライフステージに応じたがん対策を行えるがん専門医療人 ・在宅医療を認識し緩和医療を推進できるがん専門医療人 						
修了要件・履修方法	本教育プログラム・コースで定める科目について，必修科目8単位・選択科目24単位以上，計32単位以上を履修する。						
履修科目等	<p><必修科目> 集学的がん治療学特論（3単位），集学的がん治療学実習（2単位），在宅・地域医療実習（1単位），緩和医療実習（1単位），研究支援科目（8単位），論文研究（8単位）等</p> <p><選択科目> 研究支援科目（6単位以上）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	小児科や産婦人科，緩和ケアセンター等を含めた診療科横断的な連携，さらには薬剤師・看護師・理学療法士等の多職種連携に基づいて教育を行う。また，在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会Dr ネットの協力のもと実習を行うことで，在宅医療を理解，推進できる医療者の育成が可能である。						
指導体制	大学院医歯薬学総合研究科の教員，研究員 大学病院のがん専門薬剤師，がん看護専門看護師，がん関連認定看護師，理学療法士，MSW等 長崎市医師会Dr ネットの在宅医療医師						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	ライフステージに応じたがん対策を推進でき，また在宅医療や緩和医療の知識を習得すことで，大学病院や地域拠点病院等のがん診療を行う医療機関において中心的役割を担う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	3	3	3	3	12
	歯科医師	0	1	1	1	1	4
	薬剤師	0	1	0	1	0	2
							0
	計	0	5	4	5	4	18

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程）						
教育プログラム・コース名	がん看護専門看護師養成コース						
対象者	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（保健学専攻）大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と緩和ケアにおける専門医療人 ・チーム医療（多職種連携・地域連携）を意識した専門医療人 						
修了要件・履修方法	本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目34単位・選択必修科目8単位以上、計42単位以上を履修する。						
履修科目等	<p><必修科目> 集学的がん治療学特論（2単位）、がん看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位） 緩和ケアⅠ（2単位）、緩和ケアⅡ（2単位）、がん薬物療法看護Ⅰ（2単位）、がん薬物療法看護Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅴ（合計10単位）、課題研究（4単位）、フィジカルアセスメント特論（2単位）、臨床薬理（2単位）、生体情報科学特論（2単位）</p> <p><選択科目> 看護教育論（2単位）、看護理論（2単位）、看護倫理（2単位）、看護管理学特論（2単位）、コンサルテーション特論（2単位）、研究方法特論（2単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	修了単位数を12単位増加し42単位にし次の特色を強化した。①理学・作業療法士、歯科医師の視点を加え多職種連携に基づいた効果的な緩和ケア・がんマネジメントの充実、②在宅ホスピスの実習等、地域連携における社会資源の活用方法や様々なライフステージにあるがん患者の緩和ケアの充実、③Cancer Board、e-learningの活用、地域も含めた緩和ケアカンファレンス等の多角的な視点での教育展開。						
指導体制	大学院医歯薬学総合研究科の教員 大学病院のがん看護専門看護師						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本看護協会「がん看護専門看護師」の認定審査を受けることができる。合格後は専門看護師として緩和ケアを中心として病院内だけでなく訪問看護ステーションや在宅ホスピスなどで幅広く活動できる。特に病院内では横断的な活動ができ、質の高いがん医療の中心的存在となりうる。						
受入開始時期	平成30年4月						
	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	0	1	1	1	1	4

受入目標人数							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学大学院医学教育部医学専攻
教育プログラム・コース名	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース
対象者	熊本大学大学院医学教育部大学院生、一般医師、後期研修医 等
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチ・マインドを持ち、かつグローバルな視点で研究を推進することができるがん専門医療人。 ・研修医からシームレスで大学院に進学することにより、研修早期のより若い年代で 臨床・研究のバランスのとれたがん専門医療人 ・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）について習熟し、その結果を個々人のがん治療に応用することができるがん専門医療人 ・消化器における希少がん（例えばGastrointestinal Stromal Tumor[GIST]など）の症例を多く経験し、その診断・治療 ・分子生物学的特徴に習熟したがん専門医療人
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目 14 単位以上、選択必修（臨床指導科目） 8 単位以上、選択科目 8 単位以上、計 30 単位以上を履修すること。 ・e-learningシステムにて一部の授業を受講する。
履修科目等	<p><必修科目> 講義科目（2 単位）、実践Ⅰ（10 単位） 集学的がん治療学・緩和ケア学実習（初級）（2 単位）</p> <p><選択必修（臨床指導科目）> がん外科療法学実践Ⅲ、がん放射線治療学実践Ⅲ、緩和ケア学実践Ⅲ、がん化学療法学実践Ⅲ、その他 2 科目（各科目 8 単位）</p> <p><選択科目> 腫瘍先端学理論Ⅰ（2 単位）のみ必ず選択。 がん治療学理論（2 単位）、腫瘍先端学理論Ⅱ（2 単位）、その他多数。）</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医・大学院一体型消化器がん専門博士養成コースは、初期臨床研修医として研修に従事しながら、社会人大学院生として研究に従事することをが可能なため、研修早期からの臨床・研究のバランスのとれたがん専門医育成が可能となる。 ・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）についての勉強会、セミナーを定期的開催し、リサーチマインドを涵養する。また、それを臨床応用につなげることを目標とし、最終的にはゲノム医療従事者の育成を目指す。 ・多くの消化器における希少がん(GISTなど)の症例数を確保することができるため、それらの臨床データ、サンプルを用いて、希少がんに関して網羅的な検証を行うことが可能である。 ・海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークに参加することにより、グローバルな視野をもつ研究者の育成を目指す。
指導体制	がんに関わる専門資格を有する研究指導教員・研究指導補助教員を研究内容、専攻分野に応じて配置し、個々の大学院生の研究に即した指導体制を整備している。さらに、海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークが構築されており、国際共同研究を推進することも可能である。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育プログラムで研修することで、より高度ながん診療が実践でき、がんに関する多くの専門資格を取得することができる。また、消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵癌など）に関する様々な分子学的変化に関する検証を行い、多くの学会、論文で報告することができ、キャリアパスに繋がる。さらに、国際研究ネットワークに参加することにより、将来的に海外研究機関への留学なども可能となる。

受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	3	10	10	10	10	43
							0
	計	3	10	10	10	10	43

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学大学院 薬学教育部						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブ）						
対象者	臨床薬剤師						
修業年限（期間）	3カ月						
養成すべき人材像	小児、壮年、高齢者といった異なるライフステージにおけるがん治療に対して、抗がん剤治療の効能・効果及び副作用モニタリングができ、質の高いがん薬物療法を推進することができる薬剤師						
修了要件・履修方法	本教育プログラム・コースで定める講義を受講し、実際のがん薬物療法の実務・チーム医療に参加する。						
履修科目等	<p>講義 がん薬物療法に係る薬剤管理指導（複数のがん種）、副作用モニタリング、レジメン管理、外来化学療法時の服薬指導、緩和医療、臨床腫瘍学、臨床薬理学</p> <p>実務・チーム医療の実践 がん患者の病態理解と薬学的管理・介入の実践、レジメン管理登録・抗がん剤調製、疼痛マネジメント、がん化学療法における多職種連携（病診連携を含む）の実践</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん薬物療法の系統講義および実務・チーム医療の実践を行い、職種間の相互理解を推進し、様々なライフステージの患者に対応した、より効率的ながん薬物療法の実践を可能とする教育を行う。外来化学療法センターとも連携・協力体制をとり、個別対応の困難な患者に対して高度ながん治療を実践することが可能になり、がん治療の均てん化に貢献できることが特色である。						
指導体制	<p>がん薬物療法に関する高度な知識・技術を有した以下の薬剤師・教員らが指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本医療薬学会認定 がん指導薬剤師、がん専門薬剤師 ・日本病院薬剤師会認定 がん薬物療法認定薬剤師 ・日本臨床腫瘍薬学会認定 外来がん治療認定薬剤師 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースを修了した薬剤師は、日本医療薬学会（がん指導薬剤師、がん専門薬剤師）、日本病院薬剤師会（がん薬物療法認定薬剤師）などの認定取得を経て、がん領域における薬物療法等についての高度な知識と技術を用いて、医療機関において質の高いがん薬物療法の促進に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	臨床薬剤師	0	2	2	2	2	8
							0
							0

							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大分大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）						
対象者	大分大学医学系研究科大学院生（博士課程）						
修業年限（期間）	2～4年						
養成すべき人材像	ゲノム医療研究者養成コース:ゲノム医療の基礎と臨床の橋渡しを行う研究者の養成。						
修了要件・履修方法	博士課程の科目の単位を取得し、学位論文審査に合格すること。						
履修科目等	<選択必修科目・専門科目>がん研究領域の授業科目全19科目各5単位のうちから1科目以上						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ゲノム医療の基礎と臨床の両者を理解し新規オーダーメイド医療の開発を企画することができる教育内容である。						
指導体制	大学院各研究責任者により指導を行う。また、大分大学医学部附属病院や地域のがん診療連携拠点病院、在宅医療機関（在宅医、訪問看護ステーション）等での医師、看護職、薬剤師、心理士、福祉職等による実習の指導体制を取っている。その他、各コース責任者・担当者、e-ラーニング担当者などにより企画されるセミナーや講習会を通じて指導を行う						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	ゲノム医療のリーダー的基礎または臨床研究者を目指す。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	5	5	5	5	20
							0
							0
							0
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大分大学大学院医学系研究科
教育プログラム・コース名	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）
対象者	大分大学医学系研究科大学院生（修士課程）
修業年限（期間）	2～4年
養成すべき人材像	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース：がん患者のさまざまな治療過程やライフステージに応じて、専門性を基盤とした高度な実践や看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整ができる看護職の養成。
修了要件・履修方法	修士課程の科目の単位を取得し、学位論文審査に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目・共通科目> 看護理論（2単位）、看護倫理（2単位）、看護研究概論（2単位）、保健医療福祉政策論（2単位）、看護コンサルテーション論（2単位）、看護専門職教育論（2単位）、看護サービス論（2単位）、フィジカルアセスメント論（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）</p> <p><必修科目・専門科目> がん病態生理・治療論（2単位）、がん看護論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、緩和ケア論Ⅰ（2単位）、緩和ケア論Ⅱ（2単位）、緩和ケア論Ⅲ（2単位）、緩和ケア論Ⅳ（2単位）、がん看護実践演習（2単位）Ⅰ、がん看護実践演習Ⅱ（2単位）、がん看護実践演習Ⅲ（2単位）、がん看護実践演習（2単位）Ⅳ、がん看護実践課題研究（2単位）</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん患者のライフステージによる多様なニーズに応じた援助方法や地域包括ケアとしてのチーム医療や在宅医療における連携・調整能力を強化した内容である。
指導体制	大学院各研究責任者により指導を行う。また、大分大学医学部附属病院や地域のがん診療連携拠点病院、在宅医療機関（在宅医、訪問看護ステーション）等での医師、看護職、薬剤師、心理士、福祉職等による実習の指導体制を取っている。その他、各コース責任者・担当者、e-ラーニング担当者などにより企画されるセミナーや講習会を通じて指導を行う
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本看護協会のがん看護専門看護師資格認定を受け、がん診療連携拠点病院及び地域の中核病院で、看護管理部門の看護実践における変革推進者の中心となり、看護及びチーム医療の向上に貢献する。
受入開始時期	平成29年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	2	2	2	2	2	10
							0
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大分大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）						
対象者	大分大学および地域医療機関の医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、理学療法師、放射線技師など						
修業年限（期間）	2～4年						
養成すべき人材像	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）：がん患者のさまざまな治療過程やライフステージに応じたがん医療を理解し、医療チームのメンバーとして他職種と協働できる人材の養成。						
修了要件・履修方法	インテンシブコースの教育セミナーや講習会への出席とeラーニングを受講すること。						
履修科目等	他職種合同での「働く世代ががんになること」、「高齢者ががんになること」などの医療各種セミナー、講習会、eラーニング						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん医療におけるチーム医療従事する他職種が、さまざまな治療期やライフステージに応じた全人的苦痛緩和について理解する内容である。						
指導体制	大学院各研究責任者により指導を行う。また、大分大学医学部附属病院や地域のがん診療連携拠点病院、在宅医療機関（在宅医、訪問看護ステーション）等での医師、看護職、薬剤師、心理士、福祉職等による実習の指導体制を取っている。その他、各コース責任者・担当者、eラーニング担当者などにより企画されるセミナーや講習会を通じて指導を行う						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん診療連携病院、地域の中核病院のがん医療においてリーダー的存在となり、チーム医療の完成を目指す。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療従事者	20	20	20	20	20	100
							0
							0
							0
	計	20	20	20	20	20	100

教育プログラム・コースの概要

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース						
対象者	医学獣医学専攻 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がんを総合的に全人格のなかで捉え、生活の質をも考慮したがんの総合的治療が行える専門性と、将来のがん臨床研究を遂行できる高度な専門知識を備え、地域に密着し、地域全体のがん医療に貢献できる医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	本学の指定する科目を履修し、本学附属病院及び医師不足地域での実地研修を行う。						
履修科目等	【附属病院診療科及びがん診療部での演習・実習科目（以下該当診療科等）】 血液内科、消化器内科、呼吸器内科、婦人科、整形外科、小児科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、口腔外科、消化管外科、呼吸器外科、総合診療科						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ●各専門領域のがん診療専門医による科目を自主的に選考できる。 ●医療資源の少ない地域での実地研修を行い、地域でのがん治療の問題点と対策を考えることができる。 ●地域に特徴的ながん臨床研究を実施することができる。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ●医学獣医学総合研究科の大学院生担当教官 ●地域医療の専門家 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ●各臨床科のがん治療専門医 ●総合診療科の専門医 ●基礎医学者コース、がん診療のコーディネーター等のキャリアパスが想定される。 						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	宮崎大学大学院看護学研究科 修士課程 看護学専攻						
教育プログラム・コース名	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース						
対象者	3年以上の実務経験を有する看護師（がん看護の実務経験2年以上）で、コース終了後、地域のがん医療に貢献する意思のある者						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんに関する専門的知識、卓越した実践能力、看護職への教育およびコンサルテーション能力、保健医療福祉関係者間のコーディネート能力、倫理的調整能力、がん医療の向上・開発のための研究能力を有し、診療の場を問わずに切れ目のない質の高い緩和ケアを提供し、がん患者が地域の中で安心して働き暮らせることを支援できる看護師を育成する。						
修了要件・履修方法	大学院修士課程に2年以上在学し、臨地実習を含む授業科目を34単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて修士論文を作成し、審査に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目>看護倫理実践論（2単位）、がん病態・治療学、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護援助論、緩和ケア論、ターミナルケア論、がん看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（6単位）、実践看護師育成特別研究（8単位） 計28単位</p> <p><選択科目>看護研究方法論（2単位）、看護実践方法論、看護コンサルテーション論、看護教育実践論、看護管理実践論の中から6単位以上。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みやがん患者の仕事と治療の両立への支援方法を学ぶために、多職種連携教育の導入やがん診療に関する地域データを利用した教育を実践する。臨地実習施設のがん看護専門看護師や各診療科のがん治療専門医からフィジカルアセスメントを学び、高度実践のスキルを学ぶ機会を提供する。さらに、学術論文の抄読会や研究発表会を通してがん看護研究の推進を図る。						
指導体制	看護学研究科担当教員、医学獣医学総合研究科担当教員、本学が輩出してきた地域で活躍するがん看護専門看護師、日本のがん看護を牽引するがん看護専門看護師、臨床薬理専門教員からなる教育指導体制。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん診療連携拠点病院や地域でがん診療に取り組む医療施設、在宅医療の場において、がん看護専門看護師としてがん患者のがんとの共生を支え、がん医療の充実に貢献できる看護師を目指す。さらに、臨床経験を研鑽した後は、がん看護を教授できる教員・指導者として、また地域のがん医療向上に向けた施策を提言できる看護師として地域がん医療の充実に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	—	2	2	2	2	8
							0
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）						
対象者	医学獣医学総合研究科大学院生と実際に地域の医療機関において実際にかん診療に従事している医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	地域医療機関では、未だに各臓器の専門がん治療医が充足していない。そこで、内科的・外科的にかんの標準治療から終末期の緩和ケアまでを総合的に診療できる、地域がん医療を中心的に担う医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	講義のうち3分の2以上を受講する。						
履修科目等	標準治療から終末期の緩和ケアに関連する講義を行う。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに関して、標準治療から終末期の緩和ケアまで、総合的にかん患者を診療できるようにがんの各分野の専門医が集中講義を行う。						
指導体制	宮崎大学医学獣医学総合研究科の教官 がん診療部、緩和ケアチーム がん患者支援センター						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各診療科のがん治療専門医 終末期の緩和ケアの専門医 がん診療部の教員等へのキャリアパスが想定される。						
受入開始時期	平成29年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
	地域医療機関医師	1	1	1	1	1	5
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻						
教育プログラム・コース名	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）						
対象者	医学獣医学専攻大学院生と、実際に地域の医療機関において成人T細胞白血病に関する診療に従事している医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	希少岩がんである成人T細胞性白血病（ATL）を疫学、感染症学、産科学、皮膚科学、血液学、腫瘍学などの多方面から理解できる。その上で、ATL感染の予防、関連疾患の啓蒙活動、患者・家族教育、治療ができる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	3分の2以上の出席、及びこのコースで検討した症例を、文献的考察を加えて学会または研究会で発表すること。						
履修科目等	ATLに関連した講義や実際の症例をもとにした討議						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ATL研究に関して、臨床研究者、基礎研究者から専門的な知識を得ることができる。母子感染、キャリアの相談、コンサルテーションにも対応できるプログラムである。						
指導体制	宮崎大学医学獣医学総合研究科の教官 地域の総合診療医、産科医、小児科医など						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	感染症の専門医 ウイルス感染の基礎的研究者 総合診療医 等へのキャリアパスが想定される。						
受入開始時期	平成29年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	1	1	1	1	5
	地域医療機関医師	1	1	1	1	1	5
							0
							0
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	先端のがん医療コース						
対象者	医歯学総合研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療における分子生物学的成果に基づいた個別医療の基礎ならびに臨床応用を習得し、かつ薬物療法を中心とした集学的がん医療の中でそれを実践し得る専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	大学院修了要件と同様の単位習得を課す。学位論文を作成、発表し、審査を受ける。一定期間、本コースが指定するカンファレンスや研究・医療機関での実習を課す。						
履修科目等	本コースが指定する科目の中から、共通コア科目 6 単位、共通先端科目 2 単位、専門基礎科目 6 単位、演習と実験から 16 単位以上が必要である。実習として本コースが指定する薬物療法等のカンファレンスや個別医療に関する研究・医療機関での経験を課す。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力や診療能力を育成する。合わせて個別医療の実践に必要な実習を他施設医療機関と連携を組んで教育する。						
指導体制	臨床腫瘍学講座：上野 真一、鈴木 紳介 分子腫瘍学分野：古川 龍彦 鹿児島大学病院臨床研究管理センター：井戸 章雄、武田 泰生						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	鹿児島大学病院でがん個別医療の実践に関わった後、地域基幹病院でも個別医療実現の中心的役割を果たすことが期待される。						
受入開始時期	平成 29 年 10 月（予定）						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	2	2	2	2	9
							0
							0
							0
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	包括的地域がん医療コース						
対象者	医歯学総合研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん患者のさまざまなライフステージにおける全人的苦痛を理解し、より患者と地域に即した多職種によるチーム医療を実践し得る専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	大学院修了要件と同様の単位習得を課す。学位論文を作成、発表し、審査を受ける。一定期間、本コースが指定する集学的がん治療カンファレンス、ならびに緩和ケア実習または在宅医療の経験を課す。						
履修科目等	本コースが指定する科目の中から、共通コア科目6単位、共通先端科目2単位、専門基礎科目6単位、演習と実験から16単位以上が必要である。また、本コースが指定する化学療法カンファレンス、がんサージ、また、緩和ケアチームまたは在宅医療機関での実習を課す。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力や診療能力を育成する。合わせて他医療機関や患者会、またハローワークなどと連携を組んで、各ライフステージに応じた苦痛軽減や社会復帰への理解を図る。						
指導体制	臨床腫瘍学講座：上野 真一、鈴木 紳介 鹿児島大学病院病院長：夏越 祥次 鹿児島大学病院緩和ケアセンター						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域がん診療拠点病院やがん患者に関わる在宅医療等におけるチーム医療リーダーとなることが期待される。						
受入開始時期	平成29年10月（予定）						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	1	2	2	2	2	9
							0
							0
							0
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院保健学研究科
教育プログラム・コース名	放射線看護専門コース
対象者	保健学研究科博士前期課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<p>壮年期女性の甲状腺がんは好発し、甲状腺分化癌に対して行われるI-131内用療法は閉鎖されたRI室で行われ、非常に特殊であり、高度実践ができる看護師が求められる。そのような医用放射線利用に伴う高度な看護援助ができるのが、放射線看護専門コース修了の看護師である。そして、緩和ケアのステージにある有痛性の骨転移の疼痛緩和治療としてのストロンチウム-89内用療法、本学で行われている難治性褐色細胞腫のI-131-MIBG内照射療法におけるケアの高度実践も同様に提供できる。</p> <p>他にも各ライフステージにおいて、がん再発における早期発見のためのRI・PET・CT診断検査時の患者のケアを行う看護師への放射線防護の知識を基盤とした支援ができること、または、がん治療における血管造影・IVR時のがん患者の介助を行う看護師への放射線防護の知識を基盤とした支援ができることが養成する人材像である。</p>
修了要件・履修方法	博士前期課程 放射線看護専門コース：日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程基準に示された38単位および課題研究4単位を履修する。
履修科目等	共通科目A（看護教育・コンサルテーション論、看護学研究方法論、看護倫理、看護管理論、看護政策論）共通科目B（臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学特論）の計14単位以上を履修する。専門科目として、基礎放射線学、被ばく医療・放射線防護学特論、臨床放射線医学、放射線診療看護学特論Ⅰ・Ⅱ、放射線看護専門実践特論、被ばく医療看護論Ⅰ・Ⅱ、放射線看護学初期実習、放射線看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん看護専門看護師は、その専攻分野の教育内容から専門は広いものがある。しかしながら、放射線看護の専門看護師は、医用放射線利用に伴う高度な看護援助ができることをサブスペシャリティとしており、特に、患者は希少ではあるが、放射性同位元素内用療法における高度実践看護ができることは重要な役割であり、特徴である。また、放射線看護の専門看護師の教育課程を実施しているのは、弘前大学、長崎大学、鹿児島大学の三大学のみである。そのため三大学は互いの強みを活かし、連携・補完し、教育にあたっている。今回、がんプロ養成プランによって放射性同位元素内用療法、緩和ケアの重点的取り組みを実施することは新規性があり、独創性がある。また、このプランに参画することにより、がん看護専門看護師と協働することで、相互の専門性の理解を深めることにつながり、連携・補完することになれば、期待される成果は大きいものと考えられる。
指導体制	指導教員は、松成が担当し、放射性同位元素内用療法、緩和ケアを強化する。上記履修科目は保健学研究科の担当教員18名、学内非常勤講師10名、学外非常勤講師4名により、講義が行われる。実習等は、福島県立医科大学附属病院のがん専門看護師に専門看護師役割実習を依頼している、本学での実習は、がん専門看護師（落合美智子氏）に依頼している。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了後、専門領域の研修実績により、平成32年には放射線看護の専門看護師として看護協会の認定試験受験予定である。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム（インテンシブ）						
対象者	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	2ヵ月						
養成すべき人材像	各ライフステージに応じたがん患者の全人的苦痛を理解し、終末期までの緩和ケアやがんサバイバーの実態に即した患者ケア・サポートを実践できる医療者を養成する。						
修了要件・履修方法	5回の講義と緩和ケアチームでの実習						
履修科目等	AYA世代のがん疾患とその問題点 患者会（NPO）が考えるがん医療の有り方 就労支援 グリーフケア エンド オブ ライフの医療とケア						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和ケア医師・専門看護師、就労支援関係者、患者会、在宅医等の連携による患者背景（年代や就業など）に即した実際的な教育を行う。						
指導体制	臨床腫瘍学講座：上野 真一 鹿児島大学病院看護部：落合 美智子 鹿児島大学病院緩和ケアセンター						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	個々のがん患者が持つ背景や環境に即した支援体制を学習し、地域がん診療拠点病院や地域医療機関においてより求められる専門医療者となり得る。						
受入開始時期	平成29年12月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療者	5	5	5	5	5	25
							0
							0
							0
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム（インテンシブ）						
対象者	医師、歯科医師、薬剤師、看護師等						
修業年限（期間）	2ヵ月						
養成すべき人材像	希少がん及び肉腫についての集学的治療や緩和ケアの理解を深め、患者に適切な医療や支援を提供できる医療者を養成する。						
修了要件・履修方法	5回の講義と医師主導治験等による実習						
履修科目等	希少がん・肉腫総論 薬物療法総論 肉腫の集学的治療（成人） 肉腫の集学的治療（小児） 小児、AYA世代、成人に必要な緩和ケア						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	肉腫の集学的治療を中心に、薬物療法の総論から本学で行われている最新遺伝子治療までの教育を行う。また必要な緩和ケアに関しても学習する。						
指導体制	臨床腫瘍学講座： 鈴木 紳介 鹿児島大学病院緩和ケアセンター 小児科： 河野 嘉文、岡本 康裕 整形外科： 小宮 節郎、永野 聡 泌尿器科： 中川 昌之、鑪野 秀一						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	鹿児島大学病院や地域がん拠点病院において肉腫等の希少がんチーム医療のリーダーとなることが期待される。						
受入開始時期	平成29年12月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療者	3	3	3	3	3	15
							0
							0
							0
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）						
対象者	病院に勤務する薬剤師・調剤薬局に勤務する薬剤師						
修業年限（期間）	6 ヶ月						
養成すべき人材像	効能・効果及び副作用のモニタリングができ、質の高いがん薬物療法を立案・処方支援できる薬剤師を養成する。						
修了要件・履修方法	講義及び実技指導						
履修科目等	<p>講義： 抗がん薬の臨床薬理、支持療法、臨床試験、各がん腫の病態と標準療法について、緩和医療</p> <p>実技指導： レジメン管理、抗がん薬の調製、薬剤管理指導、抗がん剤の薬物血中濃度測定・解析・処方支援、緩和医療</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	抗がん剤の吸収、分布、代謝、排泄は、基本的には宿主の遺伝要素で決定されることから、個人差の把握は治療上重要な課題となる。また、がん化・悪性化の分子機序が解明され、がん予防、診断、治療に関する個別化が進んでいる。個々の体質に合った至適なレジメンを立案・処方支援できる薬剤師を養成を目指す。						
指導体制	薬物動態制御学分野：武田 泰生						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本病院薬剤師会の「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会の「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会の「外来がん治療認定薬剤師」及び、日本緩和医療薬学会の「緩和薬物療法認定薬剤師」の資格を取得し医療に貢献できる薬剤師。						
受入開始時期	平成 29 年 10 月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	薬剤師	8	8	8	8	8	40
							0
							0
							0
	計	8	8	8	8	8	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	琉球大学大学院 博士前期課程 保健学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース						
対象者	保健学研究科 博士前期課程 大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん医療に精通した医療人材が不足している島嶼沖縄県において、ライフステージに応じたがん対策を推進することができる専門看護師の養成を目指す。とくにAYA世代、小児、壮年、高齢者など幅広い世代に対して、多職種のコーディネートを担える専門看護師の育成を目指す。						
修了要件・履修方法	大学院博士前期課程に2年以上在学し、共通科目8単位、専攻教育課程科目18単位、共通必修科目4単位、必修科目8単位、計38単位以上を習得する。修士論文の審査、及び最終試験に合格する。						
履修科目等	<共通科目> 看護管理学特論（2単位）、看護理論特論（2単位）、他4単位 <専攻教育課程科目> がん治療学特論（2単位）、がん看護援助特論（2単位）、他14単位 <共通必修科目>保健学特論（2単位）、保健学研究方法（2単位） <必修科目> 特別研究（8単位）						
教育内容の特色等（新規性・獨創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄シミュレーション研修センターを活用し、多職種（医師、薬剤師、放射線技師、ケースワーカーなど）連携教育により、離島含む沖縄県内のがん患者・家族の問題解決のための高度な実践教育を行う。 ・ 遠隔テレビ授業システム活用をした大学間連携による双方向の講義を導入し、がん医療の現状、問題点、連携のあり方等について情報を共有しながら授業を行う。 ・ 地域で療養するがん患者の患者会やがんサロン等の運営に参画し、相談支援（療養支援、就労支援、遺伝カウンセリング等）の役割機能を習得する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の教員のみならず、隣接する大学附属病院（がん診療連携拠点病院）の医師、薬剤師、放射線技師等やがんプロ修了生のがん看護専門看護師、また在宅緩和ケアに従事する医師、看護師（訪問看護認定看護師、緩和ケア認定看護師等）を活用した多職種による教育を導入する。 						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了生に対しては、がん看護専門看護師の資格取得試験に向けてのスーパーバイズを行い、専門資格取得後は、県内のがん診療連携拠点病院や在宅ケアにおける役割拡大が発揮できるような継続教育支援を行う。また、県看護協会との連携により、病院看護師や訪問看護師を対象としたがん看護教育やコンサルテーション等に貢献できるよう支援する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	0	1	1	1	1	4
							0
							0
							0
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	琉球大学大学院 博士前期課程 保健学専攻						
教育プログラム・コース名	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成 ・緩和ケアエキスパートナース養成コース(インテンシブ)						
対象者	3年以上の看護実務経験(がん看護経験2年以上)を有する看護師						
修業年限(期間)	6か月						
養成すべき人材像	離島地域含む沖縄県内の緩和ケア推進を目指して多職種と協働できる人材、また将来的に、緩和ケア認定看護師やがん看護専門看護師となる人材の育成。						
修了要件・履修方法	緩和ケアに特化した集中講義・特別講義の受講(8割以上の出席)、及びがん診療連携拠点病院における緩和ケアチーム活動への同行や事例検討会への参加、緩和ケア病棟実習、また在宅医療現場における訪問看護同行や多職種カンファレンス等への参加等の実習を履修すること。修了生には、緩和ケアエキスパートナースの称号を付与する。						
履修科目等	<講義内容> ・緩和ケアに特化した集中講義(10コマ)、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、訪問看護認定看護師等スペシャリストによる特別講義の受講 ・全国がんプロe-learningクラウドを活用した講義の受講 <実習内容> がん診療連携拠点病院や地域がん診療連携拠点病院、在宅医療現場における同行実習、多職種カンファレンス参加						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	・多職種(医師、薬剤師、放射線技師、ケースワーカーなど)連携教育により、離島含む沖縄県内のがん患者・家族への緩和ケアに特化した実践教育を行う。 ・とくに宮古・八重山等離島地域で勤務する看護師に対しては、出前集中講義を通して、緩和ケアに特化した教育支援を行う。また、実習は本島内におけるがん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム活動や事例検討、緩和ケア病棟や在宅医療における緩和ケア実践活動への同行実習を提供する。						
指導体制	・本学の教員のみならず、大学附属病院(がん診療連携拠点病院)や地域がん診療連携拠点病院の医師や専門看護師、また在宅緩和ケアに従事する医師、看護師(訪問看護認定看護師、緩和ケア認定看護師等)を活用した多職種による講義、実習を提供する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・コース修了生に対しては、所属する施設における多職種チームのコーディネーターとして中心的役割が担えるようテレビ会議システムを活用した後方支援を行う。 ・その他、コース修了生は、地域住民を対象とした緩和ケアに関する市民公開講座等を企画・実施し、地域における緩和ケアの普及啓発に貢献できるよう支援する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	5	5	5	5	5	25
							0
							0
	計	5	5	5	5	5	25

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

■ プランイメージ図

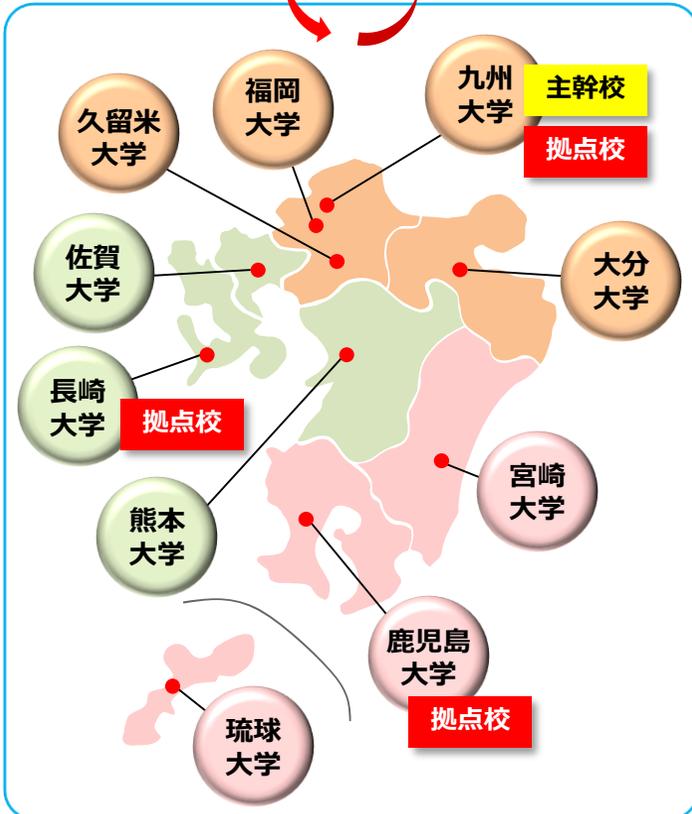
国内関係機関

参画大学他部局
 (例：臨床心理学専攻 等)
 地域医療機関・医師会
 地方自治体
 本事業採択他拠点 等

海外大学・医療機関等



連携



■ 事業概要

- 九州医療系10大学で拠点を形成。
- 地域により3つのエリアに分け、各エリアに拠点校を設置。
- 「事業運営推進協議会」により、意思統一と円滑な運営を実施。
- 新ニーズに対応した教育コースを各大学に新たに開設。
- 新ニーズに関する知識の普及等を目的とした、各種研修モデルの策定。
- 履修生へのキャリア教育等の提供による、養成人材のキャリアアップ支援。
- 他拠点との相互評価による、事業のブラッシュアップ。

■ 本プランが開設する34の新たな教育コース（インテンシブコース含む）

エリア	大学名	開設 コース数	コース種別（※）			コースにおいて 養成する主な職種
			ゲノム 医療	小児・ 希少がん	ライフ ステージ	
北部 エリア	九州大学（エリア拠点）	6	●	●	●	医師 薬剤師 医用物理士 検査技師
	久留米大学	3		●	●	医師 薬剤師 看護師
	福岡大学	2			●	医師 看護師
	大分大学	3	●		●	医師 看護師
西部 エリア	佐賀大学	2	●	●	●	医師
	長崎大学（エリア拠点）	3	●		●	医師 看護師
	熊本大学	2	●	●	●	医師 薬剤師
南部 エリア	宮崎大学	4			●	医師 薬剤師 看護師
	鹿児島大学（エリア拠点）	6	●	●	●	医師 薬剤師 看護師
	琉球大学	3		●	●	医師 看護師

※ 1つのコースが複数の種別を兼ねる場合を含む。